

CO2と経営

環境と財務の「見える化」へ

「収益を伴いながら事業活動で環境負荷を削減することを目指している」と、富田勝己パナソニックの環境企画グループ参事は説明する。従来の、商品の量産と引き換えに大量のCO2を排出する「破壊と創造」を見直し、2010年に向けて環境経営の具体的な目標や活動内容をまとめた「グリーンプラン2010」を01年に策定したが、工場からのCO2排出量原単位が7%の削減目標を大きく上回る33%削減に達するなど、07年度にはいくつかの主要項目を前倒して達成すること

とができたため、指標の情報公開、原単位に加え総量削減量の設定など新たな挑戦目標を設定し、取り組んでいる。

資本と現預金の割合比較的大きく

電機業界編②

パナソニック

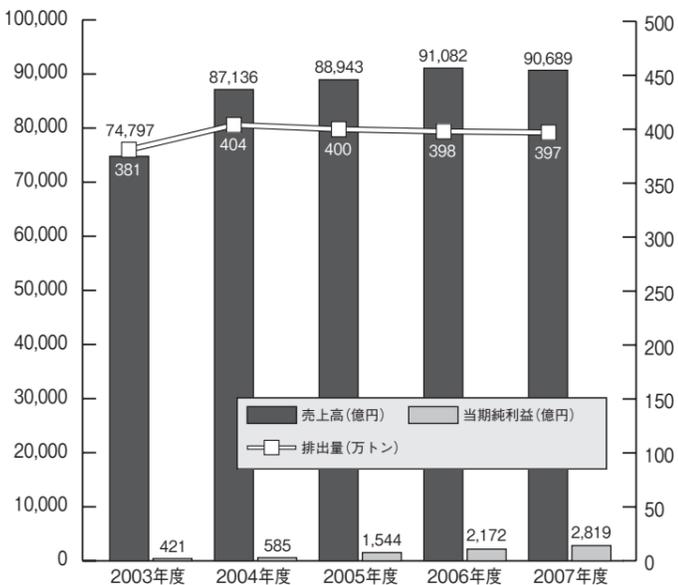


図1 パナソニックの財務状況と事業所のCO2排出量の推移 (パナソニック発行の社会・環境報告書、ユーレット<<http://www.ullet.com/6752.html>>を基に作成)

指標公開など新目標へ

「売上高は06年度から6兆円を超え、当期純利益も順調に伸びている。その一方でCO2排出量は04年度を境に減少に転じている。さらに、と現預金等の割合が比較

的大きいことが分かる。しかし、今年度の業績予想では、国内外の主要市場の経済状況悪化や製品需給の変動などの影響で、純損益が38億円の赤字に転じている。

経営指標の基幹にCO2排出量付加取り組みの一環として、経営指標の基幹にCO2排出量を付加した。17%がNO1製品として掲載されているが、09年には倍近々の30%を目指す。また、下位位置バル・西野嘉之

字へ転じるなど、大幅に下方修正され、10年度末までに日本国内の工場を中心に従業員を1万5千人削減する方針を打ち出すなど、世界的な金融危機の影響は避けられない結果となりそうだ。

同社では、06年度には398万トンに達したCO2の排出量を、09年度までにCO2を世界のライフサイクル全体で30万トン削減する目標を掲げた。さらに10年度の目標を360万トンとし、06年度水準の排出量と同じレベルまで引き下げる。現段階では、「目標達成に向けて削減が順調に進んでいる」という。

また、商品使用時の省エネを徹底追及する取り組みにも着手している。省エネルギーセンターが家電製品の省エネ性能をまとめてランキングにした「省エネ性能カタログ」では同社製品全体の



図2 パナソニックの貸借対照表(B/S)の円グラフ。現預金等や資本の割合が大きいと、一般的に経営の安定度が高い。(ユーレット<<http://www.ullet.com/6752.html>>を基に作成)